

令和七年五月十八日（日）

道了尊例大祭 勸募趣意書

山川長林寺の東大平山に鎮座まします道了尊（道了大薩埵・道了大権現）は、古くより「道了さま」の名で親しまれ、地域の人びとからあつい信仰を受けてまいりました

この道了さまがこの地に祀られたのは、今から四百数十年前、天正の時代のことです。当寺のご開山以来の歴代住職が、小田原の大雄山最乗寺の輪住の任に当たられていたご縁により、靈驗あらたかな大雄山の鎮守・道了尊を拜請して、当地にお祀りしたものです。当時、関東はいまだ血なまぐさい戦乱が続いていて、その上さらに旱魃や飢饉、洪水や疫病と繰り返す天災・人災の世の中で、人びとはまさに塗炭の苦しみに喘いでいました。この窮状を救うために、当山の七世住職となった源室永高禪師が夢のお告げをうけて、道了尊をお祀りしたところ、東大平山のふもとにこんこんと清水が湧き出したのです。これがいわゆる長林寺の七不思議の一つとして知られる猿が池の伝説です。猿が池はいまも道了尊参道入口の左奥に湿地帯として残っています。

この猿が池の湧水は、箱根の権現水に通じるものとされて、身と心を浄めてくれる聖水として人びとから崇められるとともに、寺と地域の人びとの貴重な飲料水となり、また徳川幕府代官の岡上景能公の手でこの水を蓄える権現池が掘削されて以降、門前の田畑を潤す貴重な灌漑用水としても大きな役割を果たしてきました。まさに「いのちの水」ともいえる道了尊の湧水であり、当山における道了尊信仰の原点はここにあります。その後近在の人々のみならず、遠くは江戸にまで及ぶ広範な信仰圏を形成することとなりました。

靈驗あらたかな道了尊は、もと最乗寺のご開山了庵恵明禪師のお弟子、妙覚道了和尚をお祀りしたのですが、この妙覚道了和尚は、生前より百人力という怪力の持ち主として知られ、すぐれた土木の技を発揮して大雄山の創建に多大な貢献をされた方であり、また深く修験の道を極めて、その並はずれた神通力と溢れる慈悲の御心をもって衆生を済度され、大菩薩の名をばしいままにされました。また異形となられては、十一面観音を本地とする垂迹の化身として崇められ、大権現とも呼ばれました。こうして、開運出世、勝運良縁、災障消除、家業繁昌などの守護として大いなる信仰を集めてきた次第です。称名は威徳神通無道了大薩埵とお唱えいたします。

かつて山麓にお籠り堂があった時代と比べれば、信仰の様子は多少とも異なっていますが、いまなお道了尊への信仰は絶えることなく、その伝統は連綿と受け継がれて今日に至っています。近年は、ご案内の通り、毛野大坊山ハイキングコースが開設されてその起点となり、また映画やテレビドラマのロケにもたびたび使用されるなど、道了尊の山域は新たな観光スポットとして脚光を浴びています。

本年は五年ごとの本大祭の年に当り、来る五月十八日（日）に盛大に大祭を挙行することとなりました。大祭の企画、プログラムは、左記によつて実施致しますが、今大祭においても、従来通り（伝統の祭りでご国際協力）とのスローガンをかけ、勸募金の一部をもつて公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）の事業に参加いたします。伝統の祭りを開かれた国際協力の場とすることで、一層意義深いものとして存じます。SVAは阪神淡路大震災以来、国内各地の被災地支援にも取り組んでおり、大祭の前日（五月十七日）の前夜祭では、能登半島地震被災地等での活動状況もスタッフより報告される予定となっております。

どうぞお一人でも多くの皆さまに講券をお求めいただき、大祭にご参加ご協力いただきますよう、ここに謹んでご案内申し上げます。

令和七年三月吉日

各位

道了尊大祭執行委員会委員長 菊地栄太郎
道了尊奉讃会長 湯澤一郎
道了尊山主・山川長林寺住職 矢島道彦